

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800001) 健康イノベーション概論 Introduction to healthcare innovation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lp	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 芳我 ちより, 石丸 伊知 郎, 藤村 和宏	関連授業科目	健康イノベーション研究方法論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、様々な学問分野において国内外で展開されている先駆的なケア開発やシステム開発研究における理論やその方法論について、最新の知見を紹介する。本科目では、まず看護における異分野融合研究の可能性を概観し、具体的なヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論、医療サービスのマネジメントに必要な経済学的視点から、医療におけるマーケティングに関する研究を捉え、さらにヘルスケアシステムを移植し、SDGs達成に貢献する研究について学び、工学的先端技術、経済学、教育学など異分野を融合して実現するヘルスケアの可能性を探究する。			
<b>授業の目的</b> 学際的視野を醸成し、広く応用価値のある研究方法の精選を可能とするため、様々な学問分野におけるヘルスケアに関連した課題解決に貢献する研究についての知見を深め、自らの研究の可能性について探究する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 実社会のヘルスケアに関する課題を解決する研究の動向を知り、我が国の情報化施策の経緯と現状を背景に、効果的で、かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供する技術の応用の可能性を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応） 2. 医療サービスの消費における顧客満足及び顧客参加に影響を及ぼす要因を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力に対応） 3. 国際社会のSDGs達成に貢献する国際共同研究を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応）			
<b>成績評価の方法</b> 1. テーマの応じたプレゼンテーション資料の作成と発表（50%） 2. テーマに対する議論内容（応用力・発展性など）（20%） 3. 最終課題レポート（30%）			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第 1回 オリエンテーション：看護における異分野融合研究の可能性について概観する。（前川） 第 2回 ヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論に関して、異分野を融合した先駆的研究に触れながら、ヘルスケア分野における最新のトピックや課題などを取り上げ、効果的で、かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供する技術と今後の展望について探究する。 （創造工学部：石丸伊知郎教授） 第 3回 ヘルスケアにおけるAIの利活用の実際や、ビックデータより得られる知見から、個人の健康行動への応用や可能性について探究する。（創造工学部：石丸伊知郎教授） 第 4回 マーケティングの観点から、医療サービスの重要な特性の1つである「便益遅延性」が患者、医療従事者、および医療従事者にもたらす諸問題について探究する。 （経済学部：藤村和宏教授） 第 5回 便益遅延性の観点から、医療サービスを構成する3つの便益の享受における遅延性とそれらが顧客満足や患者の参加行動に及ぼす影響などについて探究する。なお、医療サービスを構成する3つの便益とは、機能的便益（身体的な健康度の回復あるいは維持）、感情的便益（身体的健康度の低下によって喚起されるネガティブな感情の低減）、価値観的便益（病気やそれとの付き合い方、人生観に関する認識のポジティブな変化）である。これらの3つの便益は教育サービスにも当てはまることから、医療従事者の育成におけるこれらの便益における遅延性が学習			

者に及ぼす影響についても探求する。

(経済学部：藤村和宏教授)

第 6回 台湾、タイ、シンガポールなど、アジア諸国のヘルスケアシステムのしくみを日本と比べ、その優れている点についてまとめる。(芳我)

第 7回 解決すべき課題をもちより、それを解決するための方法を多角的に検討し、医療系学問にとどまらず工学、人文学等、異分野を融合した共同研究の可能性を考える。(芳我)

第 8回 まとめ：看護における健康イノベーション研究の可能性を展望する。(前川)

**【授業及び学習の方法】**

基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**【自学自習のためのアドバイス】**

各テーマについて、最近の研究の動向を調べ、また関連する参考図書、文献を探り、自身の研究課題につなげて考えてください(準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度)。

**教科書・参考書等**

参考書：松下 博宣 (2017) 『医療看護イノベーション：組織に変化を起こす 2035年生き残り戦略の教科書』メディカ出版

他、授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 講義の前後1時間

看護学科棟517室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800002) 健康イノベーション研究方法論 健康イノベーション研究方法論 Methodology of Health innovation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 渡邊 久美, 藤井 豊, ウ ィリー・イアン・デビッド, 谷本 公重, 塩 田 敦子, 川人 潤子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業では、実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、健康創造に資する研究に向けて多学門分 野(高齢者看護学、精神看護学、心理学、ウイルス学等)からの見識を取り入れ、担当者がトピックを適時選択する。 受講者は、担当教員からの解説や講義を聞き、自ら先行レビューや文献、参考書を調べ、自らの考察をまとめ、ディ スカッション、プレゼンテーションを行い思考のプロセスを表現する。また個人及び集団の健康力を高めるケア開発 や技術革新へ向けて、より高次の研究手法を修得する。			
授業の目的 多学問分野における高い倫理観を基盤に、一般市民を含む人々の健康教育力向上とともに健康イノベーションに 寄与できる介入研究や疫学研究、また国際的な場で発表するための手法を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 健康イノベーションにおける生命倫理の概要を説明できる(DP「倫理観・社会的責任」に対 応)。 2. 超高齢者社会における高齢者問題やその家族が抱える課題に対する解決方策を考察できる (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。 3. 健康イノベーションから捉えた尺度構成理論の概要や現象における測定概念と尺度構成を 理解し、方 法的理解と技術修得する(DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。 4. 観察研究や介入研究から探究する健康イノベーションの概要を理解し、ウイルス遺伝子解 析からの感染症の流行と予防に関する研究手法を修得する(DP「専門知識・理解」「研究能力・ 応用力」に対応)。 5. 研究成果の国際的公表方法の概要を理解し、国際学会等で発表で必要なスキルを修得する (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「グローバルマインド」に対応)。			
成績評価の方法 レポート課題：50% (各担当者からの課題) (主に到達目標1, 2, 3, 4, 5に対応) と健康イノベーションに関する研 究についてディスカッション等の討議に関するプレゼンテーション課題：50% (主に到達目標1, 2, 3, 4, 5に対応) と総合して評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり とする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】全15回 一般財団法人構成研究推進協会 (APRIN) 「CITI Japanelearning教材」受講義務があります。  山本美輪／3回 第1回：ガイダンスおよび健康イノベーションにおける生命倫理に関する概要 第2回：超高齢社会における高齢者問題やその家族が抱える倫理的問題の把握と考察 第3回：治療やケア未確立の認知症高齢者やその家族の倫理的問題の課題・解決策を研究的視座から探究する  川人潤子／2回 第4回：健康イノベーションから捉えた、こころと態度及び尺度構成理論に関する概要 第5回：こころと態度の測定技法			

渡邊久美／2回

第6回：看護職による認知行動療法的アプローチの介入研究のプログラム開発・実際のCBT-Nにおける講義及び演習による探究  
第7回：看護職による認知行動療法的アプローチの介入研究の評価法・効果検証のエビデンスレベルと臨床及び地域に着目しプログラム構築と研究デザインを設計し、相互評価する。

藤井 豊／2回

第8回：ウイルス遺伝子解析による進化系統樹についての講義と演習  
第9回：ウイルス感染症をモチーフとして、遺伝子解析から感染症の流行と予防の疫学的解析を学ぶ

塩田敦子／2回

第10回：母性・婦人科疾患の研究論文クリティークを通して、東洋医学の視点から課題解決を探究する。  
第11回：東洋医学の視点を看護における健康イノベーション、ヘルスケアに活かす手法、また看護研究に活かす手法を創造する。

Wiley Ian David、谷本公重／4回（共同）

第12回：研究成果の国際的公表方法の概要  
第13回：研究成果を国際的な場で発表するために必要となるスキルの概要  
第14回：英語文献講読とアカデミックライティング  
第15回：国際学会におけるプレゼンテーション（Oral/Poster）法について修得する

**【授業及び学習の方法】**

講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーションを行い受講者が発表し討議を行う（準備18時間）。  
討議後のまとめ（各担当6人×2時間）

**【自学自習のためのアドバイス】**

健康イノベーションに関する文献等に興味関心を持ち、各教員からのアドバイスに従ってほしい。  
\*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

教科書・参考書等

各教員より適時紹介する。

オフィスアワー 担当教員と直接アポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

オムニバスで行うため、事前に学生より各教員に連絡、相談し主体的に講義に出席してください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 800005) 健康発達支援看護特講 Special lecture on Health Development Support for Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 谷本 公重, 山本 美 輪, 川田 紀美子, 塩田 敦子	関連授業科目	地域ケアシステム創造看護特講	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習60時間)			
<b>授業の概要</b> この授業では、あらゆる発達段階(成人・老年・小児・母性)・健康レベルにある人々の健康課題や、ヘルスケアの発展に関連する各領域(成人・老年・小児・母性・治療)の最新トピックスを適宜選択する。受講生は、生命・生活・人生の質向上を支援する看護モデルや援助技術のエビデンス、さらに治療やケアの標準化の考え方について調べ、文献を読み、自らの考えをまとめて教員と話し合う。その上で、臨床現場の実態および看護ケアの質向上の科学的な視点から分析し、健康寿命の延伸に寄与できる新しい看護ケアの開発や理論開発によって、健康課題解決の可能性を探究する。			
<b>授業の目的</b> 健康寿命の延伸に寄与するため、新しい看護ケアの開発や理論開発による健康課題解決の可能性を探究する必要がある。 命のめばえから生涯にわたる人々の健康課題を的確に把握することや、健康力や生活の質向上のためのケアモデルと援助技術のエビデンスや看護ケアの標準化について調べ、読み、書き、話すことによって、健康寿命の延伸に寄与できる専門知識の修得に加えて、研究能力の基礎を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、病院および在宅における看護モデルやケアの標準化について討議できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 国内外の論文クリティークを通して、健康QOLの向上に寄与できる健康課題を整理できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探究できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法</b> 討議20%(特に到達目標1に対応)、プレゼンテーション20%(特に到達目標2に対応)、レポート60%(特に到達目標3に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 【授業計画】 第1回 オリエンテーション・成人看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(市原) 第2回 成人看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(市原) 第3回 療養患者の健康力向上、重症化予防の視点から健康課題を分析し、解決策を探究する。(市原) 第4回 老年看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(山本) 第5回 老年看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(山本) 第6回 高齢者やその家族のQOLを支える視点から課題解決を探究する。(山本) 第7回 小児看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 第8回 小児看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(谷本) 第9回 胎児から若年成人までの切れ目ない医療・保健・福祉の支援、健康力向上に向けた課題解決を探究する。(谷本) 第10回 母性看護学・助産学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(川田) 第11回 母性看護学・助産学に関する国内外の研究論文クリティーク(川田)			

第12回 人々が自身の健康を保証しながら次世代を生み育てていくための課題と解決策について (川田)

第13回 女性医学分野で活用されるガイドライン・アプローチ動向と限界 (塩田)

第14回 性差医療に関する国内外の研究論文クリティーク (塩田)

第15回 女性のリプロダクティブ・ヘルスの観点から生命倫理に関する課題を見つけ探究する。(塩田)

**【授業及び学習の方法】**

授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に資する研究論文の発表と討議を行う。この科目は基本的に対面授業を行う。

**【自学自習のためのアドバイス】**

第1-3回 療養患者の健康力向上、重症化予防、健康教育の視点から看護モデルやケアのエビデンス・ガイドライン等の文献・論文を集め整理し、授業で紹介できるように準備する。(市原) (12時間)

第4-6回 高齢者やその家族のQOLを支える視点から文献を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(山本) (12時間)

第7-9回 胎児から若年成人までの切れ目ない医療・保健・福祉の支援、健康力向上に向けた論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(谷本) (12時間)

第10-12回 母性・助産領域の視点から論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(川田) (12時間)

第13-15回 女性医学分野、性差医療、生殖生命倫理の視点からそれぞれ文献を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(塩田) (12時間)

**教科書・参考書等**

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー 講義のあと1時間 (21時40分～22時40分)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

※この科目は基本的に対面授業を行いますので、講義が開始される前に、研究指導教員に相談ください。

授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に資する研究論文の発表と討議を行う。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 800006) 地域ケアシステム創造看護特講 地域ケアシステム創造看護特講 Advanced Community Health Care System Creative Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子, 渡邊 久美, 前川 泰子, 藤井 豊, 芳我 ちより	関連授業科目	健康創造看護学演習	
	履修推奨科目	健康創造看護学演習	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会における次世代ケアシステムの構想として、既存の制度やインフラに依存しすぎることなく、その地域独自の自助、互助、共助を基盤とする保健・医療・福祉・生活を有機的に連携させた革新的な仕組みの開発が期待される。在宅を支える行政サービスの理解を深めた上で精神障害や認知症その他の人々の生活に着目した感染症等の視点を含め、公衆衛生的な観点にまで思考を深めるために具体的方法について、多角的に探究する。その実現に向けて、文献検討・先行研究リサーチを通して、各専門領域におけるシステムづくりに必要となる理念、研究方法論に関する検討を行い、そのアウトカム評価に関する多様な研究デザインのあり方について探究する。			
<b>授業の目的</b> 保健・医療・福祉・生活を一体的にみて地域における組織や社会の活性化を図る地域包括ケアシステムの構築を通して、理論的に人々の健康を支える考え方や方法、システムづくりに関する能力を学修する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、病院および在宅における看護モデルやケアの標準化について討議できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 国内外の論文クリティークを通して、健康QOLの向上に寄与できる健康課題を整理できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 健康課題の解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探究できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法</b> プレゼンテーション40% (特に到達目標2に対応)、レポート60% (特に到達目標1、3に対応)、講義態度等と合わせて評価する。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション: User Needs Algorithmを用いた行政サービスプログラムの開発に向けて、文献から研究の潮流を知る (松本)。 第2回 研究の潮流を踏まえた上で、行政サービスプログラムの開発に向けて社会情勢を理解する (松本)。 第3回 User Needs Algorithmを用いた行政サービスプログラムの開発に向けた、社会情勢および研究の潮流を踏まえたうえで具体的方法について、多角的に探究する (松本)。 第4回 精神障害者および就労弱者の就労支援モデルを可視化するため、企業と福祉の連携の実際について、文献検討及び、障害者就労の現地においてフィールドワークを行う (渡邊)。 第5回 精神障害者および就労弱者の就労支援モデルを可視化するため、就労弱者が共生できる分業と人員配置のノウハウについて、障害者就労の現地においてフィールドワークを行う (渡邊)。 第6回 精神障害者の就労支援モデルの可視化を試みるとともに、そのアウトカム評価に関する研究の展開について、フィールドワークで得た学びに基づき、多角的に探究する (渡邊)。 第7回 我が国の行政の情報化施策の経緯と現状について知り、地域行政のサービスシステムに求められている機能や安全性、その実現に向けた取り組みなど文献検討を行う (前川)。 第8回 現状を概観的に踏まえた上で、超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会に焦点化し、課題解決に対する多様な社会状況を理解する (前川)。			

第9回 超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会に焦点化した課題解決に対する多様な社会状況を理解したうえで、Information and Communication Technology (ICT)を用いたツール開発に関する研究やその応用について探究する（前川）。

第10回 行政の制度や精神疾患その他の状況を踏まえた上で、すべてに影響を与える感染予防対策状況の理解は重要である。インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスの研究論文等から文献検討を行う（藤井）。

第11回 インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスの研究論文を用い、ウイルスの増殖や感染症の流行を阻止といった課題解決を探究する（藤井）。

第12回 第10回、第11回の授業を踏まえて、健康QOL向上を見据えた研究の方向を展望する（藤井）。

第13回 行政の制度や地域でのケアの現状を研究的にも概観したうえで、公衆衛生看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界を捉える（芳我）。

第14回 国内外の文献論文クリティークを通して、健康課題を整理する（芳我）。

第15回 国内外の文献検討から、整理した健康課題を焦点化し、その解決に向けた研究の方向性を探究する（芳我）。

#### 【授業及び学習の方法】

授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に関連する研究論文の発表と討議を行う。この科目は基本的に対面授業を行う。

#### 【自学自習のためのアドバイス】

第1回～第3回 地域ケアシステムにおける在宅看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（松本）（12時間）。

第4回～第6回 地域ケアシステムにおける精神看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集をする。様々な既存システムや精神保健福祉施策との関係を踏まえて、看護職としての立場から、障害者と健常者の隔のない共生をめざす新たな就労支援モデル案の構築を行う（渡邊）（12時間）。

第7回～第9回 地域ケアシステムにおける基礎看護学領域での理論の活用の可能性、看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（前川）（12時間）。

第10回～第12回 地域ケアシステムへの寄与を目指してウイルスの増殖や感染症の流行に関して論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する（藤井）（12時間）。

第13回～第15回 地域ケアシステムにおける地域看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（芳我）（12時間）。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

#### 教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー 研究指導教員にメールを利用し、アポイントメントを取ってください（随時可能）。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

地域のケアシステムを創造的思考のもとに、看護に還元するために探究したいと思います。自分なりの意見を持ち、講義に臨んでください。



ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800007) 健康創造看護学演習 Field Study for Dissertation Research	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 塩田 敦子, 藤井 豊, 前川 泰子, 市 原 多香子, 谷本 公重, 川田 紀美子, 山本 美輪, 渡邊 久美, 松本 啓子, 芳 我 ちより, 西村 亜希子, 辻 京子, 金 正 貴美, 野原 留美	関連授業科目 健康イノベーション概論 健康イノベーション研究方法論		
	履修推奨科目 看護特講	康発達支援看護特講	地域ケアシステム創造
学習時間 演習 90分×30回 + 自学自習 (準備学習30時間+演習自己学習60時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 社会的実装を可能とする研究実施のため、あらゆるライフステージの人々を支援するための知見を基盤とし、国内外の文献検討・先行研究リサーチを通して、取り組むべき革新的な研究課題を明確化する必要がある。 この科目では、受講生が探究する領域の医療・福祉サービス提供機関等でフィールドワークを計画・実践することによって成果物としてまとめる。また、フィールドワークの成果と多角的な文献検討からの成果を比較・統合しながら、定期的に指導教員と討議を行う。さらに、研究課題に関連する研修会や学術集会・研究会等への参加を行い意見交換することで見聞を深める。			
<b>授業の目的</b> 社会的実装を可能とする研究実施に向けて、自己の研究疑問から取り組むべき研究課題を精練させる必要があります。この科目では、課題解決へ向けたフィールドワークを行い、研究者や実践家とのディスカッションを通して見聞を深めることで、自己の研究課題をより明確化させることを目的にします。 フィールドワークと多角的な文献検討からの成果を統合することによって、個人および集団の健康力を高めるケア開発や健康の可能性を拡大する技術革新、一般市民を含む人々の健康教育に役立つ健康イノベーション寄与できる意義のある研究課題を精選し、適切な研究手法を用いて研究を計画できる能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. フィールドワークで取り組むべき課題について論理的に述べることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 2. フィールドワークの活動・調査方法を立案することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. フィールドワーク立案計画について、フィールドの関係組織、担当者に説明・提案することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 4. フィールドワークにおいて、研究課題に関する実際の現象確認または基礎調査を理論的根拠に基づき実施できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 5. フィールドの特性に応じた、顕在的あるいは潜在的な健康課題を述べるすることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 6. フィールドワークで得られた研究課題に関する現象や基礎調査の成果を適切にフィードバックすることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 研究すべき課題を適切に表現できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 8. 取り組むべき研究課題について論理的に説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 9. 研究課題に応じた研究デザインを選択できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 10. 研究実施に伴う、倫理的課題について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
<b>成績評価の方法</b> 主体的な参加度(20%：到達目標の1から3に対応) フィールドでの取り組みと成果プレゼンテーションでの討議内容 (50%：到達目標の4から6に対応) 研究計画書作成の達成度 (30%：到達目標の7から10に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			

## 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

### 【授業計画】

研究課題の明確化および適切な研究手法の選択のために、フィールドワークを行う。そのため、第1回～10回までをフィールドワークの準備期間とし、課題候補を抽出し、フィールドワークを計画する。第11回～第24回までは計画に基づき、フィールドワークを展開する。途中、適宜、指導教員と連絡を取りながら、主体的にフィールドワークを行う。第25回は現地でフィールドワークの成果発表を行い、その後その成果を踏まえた上で、科学的妥当性および倫理的妥当性のある研究計画を立案する。

- 第1回 ガイダンス：本授業の進め方・方針について説明する。
- 第2回 フィールドワーク準備：フィールドワークにおける看護実践の課題候補の抽出
- 第3回 フィールドワーク準備：フィールドワークの場所・施設に関する情報収集
- 第4回 フィールドワーク準備：フィールドワークの場所・施設決定と方法の検討
- 第5回 フィールドワーク準備：フィールドワークの目標設定
- 第6回 フィールドワーク準備：フィールドワークの計画立案
- 第7回 フィールドワーク準備：具体的方法とスケジュール立案
- 第8回 フィールドワーク準備：活動計画の倫理的課題検討
- 第9回 フィールドワーク準備：系統的評価方法の検討
- 第10回 フィールドワーク計画発表
- 第11回 フィールドワーク開始：ゲートキーパーに対する目的、方法の説明、検討

・フィールド候補：本学医学部附属病院及び関連病院、国際希少糖研究機構、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、四国こどもとおとなの医療センター、香川県内の小中学校、香川県内自治体、中四国内訪問看護ステーション・介護福祉系施設、香川県内精神障害者家族会、香川小児がん家族会、当事者支援グループ・就労継続支援施設、本学協定校（タイ、チェンマイ大学等）、各研修会・学術集会・研究会

・第11回～第24回までは、フィールドの状況、フィールドワーク目標にそって、学習をすすめる。  
以下、おおよその内容を示す。

- 第12回 フィールドワーク：フィールドおよび対象の全体把握①
- 第13回 フィールドワーク：フィールドおよび対象の全体把握②
- 第14回 フィールドワーク：12～13回とは異なる方法でのフィールドおよび対象の全体把握①
- 第15回 フィールドワーク：12～13回とは異なる方法でのフィールドおよび対象の全体把握②
- 第16回 フィールドワーク：フィールドおよび全体の概要のまとめ
- 第17回 フィールドワーク：フィールド調査①
- 第18回 フィールドワーク：フィールド調査②
- 第19回 フィールドワーク：フィールド調査③
- 第20回 フィールドワーク：関係者への聞き取り内容および調査方法の再調整
- 第21回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査①
- 第22回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査②
- 第23回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査③
- 第24回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査④
- 第25回 フィールド内での活動成果発表
- 第26回 研究計画書作成：フィールドワーク成果を踏まえた上での研究課題の明確化
- 第27回 研究計画書作成：研究デザインの検討
- 第28回 研究計画書作成：研究方法の検討
- 第29回 研究計画書作成：データ分析の方法の検討
- 第30回 研究における倫理的課題の検討

### 【授業及び学習の方法】

フィールドでの活動および予備調査を中心に進めます。活動目標は指導教員および各フィールド担当の教員を中心として共に検討します。フィールドワーク中は常に、自己の目標とフィールドの状況を照らし合わせて、フィールドノートの作成・インタビュー実施などを適切に行うこと。また、適宜、指導教員と連絡をとり、学習目標の到達に向け、自学自習を進めてください。各教員は、より完成度の高い研究計画立案ができ、授業目標が到達できるように、倫理的配慮を基盤として、研究の独創性と新規性等の視点から質問やアドバイスを発展的に行います。

### 【自学自習のためのアドバイス】

フィールドの特性に応じた、適切な態度で主体的かつ自律的な姿勢で取り組むことが重要です。

1. 事前に自己の研究疑問を明確にした上で、必要な文献や資料を収集します（30時間）。
2. フィールドワーク中は、自己の視点とフィールドワークで調査する対象の視点を比較しながら、現象をとらえることを意識して記録をしてください。（40時間）
3. フィールドワークの最終には、現地で成果発表を行います。（20時間）
4. フィールドワーク終了後には、その成果より研究課題の明確化をおこない、研究計画書の作成に取り組んでください。（30時間）

教科書・参考書等

### 【参考書】

- Polit D. F, Beck C.T(2020): Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice (11th ed.), Lippincott Williams & Wilkins
- Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳(2015):バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン
- American Psychological Association (2020): Publication Manual of the American Psychological Association (7thed.), American Psychological Association, Washington
- Hulley, SB. et al (2007)/木原雅子, 木原正博訳(2014): 医学的研究のデザイン(第4版), メディカル・サイエンス・インターナショナル.

オフィスアワー 研究指導教員に随時、可能。メールを利用し、アポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

フィールドの特性に応じた、適切な態度で主体的かつ自律的な姿勢で取り組むことが重要です。各教員は、より完成度の高い研究計画立案ができ、授業目標が到達できるように、倫理的配慮を基盤として、研究の独創性と新規性等の視点から質問やアドバイスを発展的に行います。適宜、連絡をしてください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800008) 健康創造看護学特別研究 Doctoral Dissertation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 市原 多香子, 谷本 公重, 藤井 豊, 渡邊 久美, 前川 泰子, 山本 美輪, 松 本 啓子, 芳我 ちより, 塩田 敦子, 川 田 紀美子, 西村 亜希子	関連授業科目	健康発達支援看護特講、地域ケアシステム創造 看護特講、健康創造看護学演習	
	履修推奨科目	健康イノベーション概論、健康イノベーション 研究方法論	
学習時間 授業90分×60回 + 自学自習 (準備学習180時間)			
<b>授業の概要</b> この授業では、指導教員1名、副指導教員1名以上の指導の下に「健康創造看護学」に関する研究活動を実施し、その成果をまとめるための科目であり、指導教員・副指導教員によるゼミ形式で運営します。必修科目である「健康発達看護特講」または「地域ケアシステム創造看護特講」を踏まえながら、1年次から研究計画の立案を開始し、2年次では研究を実施し、3年次に研究をまとめることを目安に指導します。 博士課程に相応しい研究成果物を作成するために、文献検討、計画書の策定方法、研究方法等について受講者と討議します。			
<b>授業の目的</b> 健康創造看護学の発展に寄与できる研究課題を明確化したうえで、研究計画書を洗練させて、研究活動を展開する必要があります。 受講生は、研究課題を実装可能なものへと進化させ、研究計画書を精練し、研究活動を展開し、一定の結論を導くプロセスを辿ることによって、研究に関する専門知識に加えて、研究能力と応用力を身につけます。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 各特講・健康創造看護学演習の進行及び成果と連動させながら、健康寿命延伸や健康QOL向上のための健康課題の解決に有用な研究計画を策定する。(DPの「研究能力・応用力」に対応) (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 研究計画に沿って研究活動を展開できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 分析結果の妥当性を検証し、発表できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
<b>成績評価の方法</b> 作成した研究計画書20% (到達目標1に対応)、研究プロセスへの取り組み状況30% (到達目標2に対応)、発表内容50% (到達目標3に対応) により総合的に評価する。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 【授業計画】 以下の内容について教授する。 第1回 ガイダンス：博士課程の研究水準の説明 第2回 追加文献検討 第3回 追加文献検討と研究課題の明確化 第4回 研究課題と概念分析① 第5回 研究課題と概念分析② 第6回 研究課題と概念枠組み 第7回 リサーチミーティング発表と討論①：研究課題と概念枠組みの説明 第8回 研究デザインの検討 第9回 研究デザインの決定 第10回 研究計画書の策定：追加文献レビュー			

- 第11回 研究計画書の策定：研究方法の再検討
- 第12回 研究計画書の策定：研究意義、倫理的課題の再検討
- 第13回 リサーチミーティング発表と討論②：研究計画書の説明
- 第14回 研究計画書の完成
- 第15回 研究計画書の間接発表：準備
- 第16回 研究計画書の間接発表
- 第17回 研究計画書の間接発表：研究計画書策定過程の自己評価と課題の明確化
- 第18回 倫理審査申請書の準備
- 第19回 倫理審査申請書の完成
- 第20回 倫理審査申請書の修正
- 第21回 研究の実施：対象施設・関連団体への研究依頼
- 第22回 研究の実施：インフォームドコンセント
- 第23回 研究の実施：対象者へのアプローチ
- 第24回 研究の実施：初回データ入力とデータ収集の評価
- 第25回 研究の実施：データ収集の再検討
- 第26回 研究の実施：データ収集とデータコード化
- 第27回 研究の実施：データ収集とデータ入力
- 第28回 研究の実施：データ入力とデータ確認
- 第29回 研究の実施：データ整理とデータクリーニング
- 第30回 研究の実施：データ分析：統計ソフトの選択
- 第31回 研究の実施：データ分析：記述統計（変数の特徴）
- 第32回 研究の実施：データ分析：推測統計
- 第33回 研究の実施：データ分析：質的データの分析
- 第34回 研究の実施：データ分析：結果の要約
- 第35回 研究の実施：データ分析：研究方法に応じた図表作成
- 第36回 研究の実施：結果として論述、図表作成
- 第37回 リサーチミーティング発表と討論③：データ分析結果のまとめ
- 第38回 論文作成方法：作成要領の確認
- 第39回 論文作成方法：序論の論述
- 第40回 論文作成方法：文献レビューの論述
- 第41回 論文作成方法：研究目的の記述
- 第42回 論文作成方法：研究方法の論述（デザイン、対象）
- 第43回 論文作成方法：研究方法の論述（収集用具、データ分析・解析）
- 第44回 論文作成方法：分析結果の解釈
- 第45回 論文作成方法：結果の論述
- 第46回 論文作成方法：考察の論述
- 第47回 論文作成方法：研究の限界の論述
- 第48回 論文作成方法：結論
- 第49回 論文作成方法：タイトル・キーワード
- 第50回 論文作成方法：要旨
- 第51回 論文作成方法：抄録作成
- 第52回 リサーチミーティング発表と討論④：目的・方法・結果・考察の整合性
- 第53回 論文投稿方法：手続き
- 第54回 論文投稿方法：原稿の作成
- 第55回 論文投稿方法；推敲
- 第56回 発表の準備：発表資料
- 第57回 発表の準備：図表
- 第58回 発表の準備：プレゼンテーション
- 第59回 発表
- 第60回 発表：全過程の自己評価と長期的展望

**【自学自習のためのアドバイス】**

指導教員から適切に指導を受け、授業に関する箇所を調べ、意見をまとめておいてください。(180時間)

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考文献等を適宜提示する。

オフィスアワー 各指導教員による。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

**【授業及び学習の方法】**

この科目は、指導教員や副指導教員からなるゼミ形式で運営します。指導教員等からの指導のもと研究活動を実施することとなります。

学内の中間発表会において研究計画書の公開指導を受けるとともに、医学部倫理委員会に倫理審査申請書を提出し承認を得る必要があります。授業計画にもとづき研究活動を展開し、その成果を定期的に指導教員に報告してください。また関連雑誌へ論文投稿の準備を行ってください。

